

こども環境学習講座
エコっこスクール 2013 「生きもの観察隊 in 秋吉台」

- ★日 時 平成25年6月15日(土) 8:45~16:40
★場 所 山口県セミナーパーク
秋吉台エコ・ミュージアム及びその周辺
★参加者 26人(小学4~6年生)

1. スケジュール

8:45~9:00	開講式
9:50~11:50	カタツムリの学習、採取、採取したカタツムリの解説
12:00~12:50	昼食、休憩
13:00~15:30	カエルの学習、モリアオガエルと卵塊探し カエルのプロフィールづくり
16:20~16:40	アンケート記入、閉講式、解散

2. 講師

萩市立川上中学校 校長 増野 和幸氏
秋吉台エコ・ミュージアム 自然解説指導員 田原 義寛氏

3. 活動内容

【カタツムリの学習】

秋吉台エコ・ミュージアムのレクチャールームで、講師の増野先生と一緒に童謡「かたつむり」を合唱した後、「かたつむりのクイズ」5問に各自で取り組み、答え合わせをしながらカタツムリについて学習しました。

映像「かたつむりの不思議」で、いろいろな種類のカタツムリの写真を見ながら、カタツムリの体の特徴や生態について学習しました。カタツムリは動きが遅く行動範囲が狭いため、それぞれの棲む環境に適応し、多くの種類がいることを学習しました。

【カタツムリの採取】

秋吉台エコ・ミュージアムから秋吉台少年自然の家へ向かう歩道沿いの林で、クマデなどを使用して枯れ葉の下や樹木、石灰岩の上にいるカタツムリを採取しました。

大きさが1mm程度しかないベニゴマオカタニシをルーペで観察したり、ガードレールについている小さなギザギザの跡がカタツムリの歯形だとの説明もありました。

【採取したカタツムリの解説】

秋吉台エコ・ミュージアムに戻り、採取したカタツムリを集めると、秋吉台でしか見られない希少種のキセルガイモドキ、キュウシュウシロマイマイを含む9種類がいました。



カタツムリは歯舌で食べ物を削りとって食べていると、写真を見せながら解説されました。

【モリアオガエルの学習】

講師の田原さんが準備したモリアオガエル、シュレーゲルアオガエル、ニホンアマガエル（以上アオガエル3兄弟）とヌマガエルに触ったり、鳴き声を聞き分けたり、カエルの体色は保護色になっていて、土や葉っぱなど生活場所によって違うことを学習しました。



【モリアオガエルと卵塊探し】

秋吉台エコ・ミュージアム近くの枯れ川やゲゲゲのエコ森池付近でモリアオガエルとモリアオガエルの卵塊を探しました。

今年は空梅雨の影響でモリアオガエルの卵塊の数が極端に少なく、枯れ川沿いのモミジの木でモリアオガエルがやっと1匹見つかる程度でした。



ゲゲゲのエコ森池へ移動すると、モリアオガエルの卵塊をみつけましたが、すぐ近くにシマヘビが2匹おり、産卵に来るカエルを狙う姿を見ることができました。エコ森池周辺のオオシマザクラには9個卵塊が見つかりました。（昨年同時期は34個あったそうです。）



【カエルのプロフィールづくり】

秋吉台エコ・ミュージアムに戻って5つのグループに分かれ、以下の項目について各グループで協力して調べました。

①モリアオガエルのオタマジャクシの特徴

→体色は黒、目が横についている、背中に線がある

②モリアオガエル卵塊1つあたりの卵とオタマジャクシの数

→卵 250 個オタマジャクシ 300 個の計 550 個／オタマジャクシ 405 個（卵カウントできず）

③モリアオガエルの体長 →平均 7 cm

④モリアオガエルの体重 →平均 24.6g

⑤モリアオガエルの外見の特徴

→目が赤っぽい又はオレンジ色、体がザラザラしている（鮫肌）

4. まとめ・感想

当日は朝雨が降っていましたが、セミナーパークを出発するころに上がり、屋外での活動も予定通り無事行うことができました。

今回はカタツムリとモリアオガエルを取り上げ、2人の講師の協力により参加者は実物に触れながら特徴や生態を学ぶことができました。カタツムリやカエルに今まで触った経験がない参加者も多く、おそろおそろ触ったり喚声があがったりと、とても賑やかな講座となりました。

日頃の生活で生きものとの関わりが希薄になっている子どもたちにとって、とても貴重な体験になったのではないかと思います。